

目的 女子学生のもっとも身近な服装である通学服について調査を行った。学生は毎日エゴまな服装で通学しているが，その選択にあたりデザインや品質などの要因を，学生たちはどのように考慮しているかを検討した。すなわち，好きな通学服と嫌いな通学服を規定する要因はなにであるかを調べた。

方法 短大家政科1，2年生175名を対象に調査した。通学服を規定する要因と考えられる基本的な項目について検討した。それはブランド，デザイン，品質（素材，縫製），色・柄，取扱い（手入れ），着心地，流行の8項目である。これらの調査結果を数量化Ⅱ類によって分析した。さらに好きな通学服，嫌いな通学服の中に存在する因子はどのようなものであるかを，因子分析により検討した。

結果 単純集計の結果，好きな通学服について60%以上の回答があったのは「デザインがかなり気に入っている」「サイズが身体にかなりよくあっている」「品質はかなりよい」「流行遅れでも流行中でもない」の4つである。また嫌いな通学服で60%以上のものは「流行遅れでも流行中でもない」の1つであった。8項目のなかで好きな服と嫌いな服の評価の開きの大きいのは「デザイン」で，反対に開きの小さいのは「取扱い」である。数量化Ⅱ類の分析結果（相関比2.93）では好きな通学服か嫌いな通学服かを規定する要因はデザイン，着心地，色・柄の順であった。これら2つのタイポに弁別する正判別率は95.1%と高かった。因子分析では3因子が抽出され累積寄与率は70.5%である。第1因子はデザイン，色・柄で因子寄与率は52.3%，第2因子は品質，サイズ，着心地，第3因子は取扱いであった。